

■ 2020年度 入試問題分析シート ■

慶應義塾大学

経済学部

科目	数学
----	----

総括

試験時間	80分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	150点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

昨年より難度が上がり、10年以上出題されなかった項目が復活するなど、受験生にはかなり難しかったであろう。試験時間が相対的に短いため、機械的に処理するだけでは解き切れないような出題もあり、適切な解法を見出す力も問われた。

〈特記事項・トピックス〉

文系入試でここまで本格的な出題は珍しい。前半のマーク式の部分は方針を立てるのが難しく、後半の記述式は答案をまとめるのが難しい。
条件を満たす整数値を求める問題は過去にもよく出題されているが、整数論的考察をするのは2004年以来である。それも数列としての出題であり、今年のように純粋な整数問題はここ30年では出ていない。
その他の出題内容は昨年とほとんど変わらないので、動揺を与えたという程ではなかったと思われる。

〈合格への学習対策〉

定石通りに解ける問題であっても高い学力が問われるので、普段からよく考え、その過程を答案としてきちんと書けるような訓練をしておく必要がある。今年のように、10年以上出題されていなかった項目が突然問われることも珍しくないので、どの単元も漏れなく丁寧に学習しておかなければならない。また、内容の深い問題や作業量の多い問題が出題されるので、日頃から根気強く最後まで解き切るように心掛けたい。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
[1]	マーク式	A	整数	1つの不定方程式を条件の違いにより異なる手法(定石通りの変形、範囲の制限、素因数分解)で解く。	やや難
[2]	マーク式	A	確率	さいころを投げたときの出た目の合計についての確率(反復試行の確率)を求める。	やや難
[3]	マーク式	B	数列	番号が偶数と奇数で定義が異なる漸化式の一般項と和、桁数を求める。	標準
[4]	記述	II, B	空間ベクトル, 図形と方程式	座標空間における球面上の2点を通る直線とxy平面との交点の軌跡。空間における三角形の面積の最小値。	やや難
[5]	記述	II	指数・対数, 三角関数	対数方程式・不等式と三角関数の合成と最大最小。	やや難
[6]	記述	II	整式, 微分法, 積分法	微分積分計算の条件から多項式関数を決定し、 $0 \leq x \leq 1$ における最大値、およびグラフと座標軸とで囲まれる部分の面積を求める。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。